

船橋市社会科セミナー通信 第191号

9.15土 報告

勉強会会場は、いつもの〈船橋市勤労市民センター〉。今回の出席者は、会場担当で事務局長の富澤真也（芝山西小）と佐藤一巳・野宮典子（浦安市浦安中）・大野肇（県立行徳高校）の各先生と会長の池田（長野県安曇野市在住）の合計5名。

その後の懇親会は、近くの居酒屋で4名が参加でした。

1本目:知っ得ニュース 60

池田義光

今回も会員の皆さんが知っておくべきニュース、知って得するニュースをとりあげて、その解説を行ってきた「知っ得ニュース」も毎回1本ずつ報告してきて、今回で60回目になりました。

[1]世界の食糧問題 ～NHK Eテレ《高校地理講座》から

1 世界では食糧の不足する飢餓の国があるのはなぜか？

(1) 世界では約8億人が飢餓で苦しんでいる。主な飢餓地域はサヘル（サハラ砂漠の南）などアフリカやアジアや中南米

(2) 飢餓の原因

- ① 食糧生産が人口増に追いつかない
- ② サヘルでは度々干ばつが起きる
- ③ 過耕作などによる砂漠化の進行
- ④ スーダンなどでは紛争や内乱
- ⑤ ガーナなどでは植民地時代にできた「モノカルチャー経済」のために経済が不安定で、カカオの暴落の年に飢餓が起きやすい

2 食糧が余る国は

(1) 過剰な食糧消費が肥満を生む…アメリカでは国民の約4割が肥満。1日の摂取カロリーは3600 kcal（ザンビアは1900 kcal）

(2) 食品ロス…日本は年間600万トン捨てる（世界の食糧支援全体を上回る量）

(3) 食用以外に使われる

3 世界の穀物生産量は世界中の人が食べる量の2倍なのになぜ？

(1) 世界の年間穀物生産量は約25億トンで、世界中の人が年間に食べる量の約2倍である

(2) 穀物の人間の食用は約48%。飼料用が35%、その他が17%

1kgの牛肉を作るのに必要な穀物は10kg

(3) その他とは、バイオエタノール用などである。

[2]世界の農業 ～NHK Eテレ《高校地理講座》から

1 世界一の農産物輸出国は？ →ダントツでアメリカ（「世界の食糧庫」）

どんな農業のやり方をしているのか？

広大な土地、大資本で企業的経営、大型機械の使用、大規模生産、商業的農業
このような農業を「企業的農業」という

2 世界第2位の農産物輸出国は？ →オランダ

(1) 国土の面積は日本の10分の1、農地面積は日本の3分の1

(2) 輸出額は日本(33億ドル)の2.6倍(953億ドル)

(3) どんな農業のやり方をしているのか？→巨大な農業施設とIT農業

例えば、141km²の敷地に幾つかの企業の共同経営のハウス栽培（トマト・パプリカなど極めて少ない品種を栽培）

① 土の代わりに人工繊維を使用

② 1日数十回自動で水やり

- ③ビニール管から全自動で光合成に最適な二酸化炭素濃度を維持
 - ④農業従事者はほとんど農地に行かず、オフィスのパソコンの前で仕事
ハウスの中が農産物にとって常に最適の環境になるように管理(温度・湿度・水・CO₂等)
- (4) 主な輸出先：オランダはEUに大量輸出(近い、自由貿易)

[3]世界の林業 ～NHK Eテレ《高校地理講座》から

1 日本の林業

- (1) 日本は、国土面積が世界 61 位、森林面積が世界 23 位
- (2) 1960 年頃までは、木材はほぼ国産 100 %だったが、現在は木材輸入国(世界第 4 位)
2002 年には自給率 18.8 %
- (3) 日本の林業の現状
日本の林業は儲からない→後継者育ちにくい→高齢化が進む→森林管理がままならない→良い木材が出荷できない→儲からない→
- (4) 2016 年には自給率 34.8 %に回復
 - ①森林が回復傾向 ②国産木材の生産コスト改善 ③バイオマス燃料として活用

2 カナダの林業

- (1) カナダは世界第 1 位の木材輸出国(2017 年)
- (2) カナダ林業の利点とは
 - ①森林は平地にあるので大型機械が入りやすい
 - ②針葉樹林帯で種類が少なく、まっすぐな木が多いので、作業しやすい
- (3) カナダ林業の大型機械
 - ① 1 時間に 120 本の木を伐採できる機械がある
 - ②伐採した木を 10 本以上まとめて運搬できる機械がある
 - ③枝葉を切り落として同じ長さにとろえる機械がある
 - ④一度に大量の木材を運搬できる大型トレーラーがある

[4]世界の水産業 ～NHK Eテレ《高校地理講座》から

1 日本の水産業

- (1) 日本の周りの海(EEZ 排他的経済水域)の広さは、世界第 6 位
- (2) 1950 年頃までは、水産物の自給率は 100 %を越えていた。現在は 60 %程。
- (3) 水産業の推移
 - ① 1973 年の石油危機で遠洋漁業の漁獲量が減少
 - ② 1994 年に EEZ (排他的経済水域) が設定され、海外で領土から 200 海里(約 370km) 以内の漁獲ができなくなって遠洋漁業が減少。それを補うために沖合漁業で乱獲が行われた水産資源が激減した。
 - ③ 1980 年代から、台湾・スリランカなどから安い水産資源の輸入が増加
 - ④経済成長が続く中国などの発展途上国で健康志向の高まりなどから食生活の変化が起こり、水産物の需要が増加している

2 「持続可能な水産業」の志向が強まっている

- (1) 中国の内水面などで養殖が増加している。
しかしその大半は「一般的な養殖」のために、海から稚魚を取り大きくするだけなので、海の資源が減る。
- (2) 2002 年日本の近畿大学が世界初のクロマグロの「完全養殖」に成功した
「完全養殖」なら、養殖魚から卵を取り孵化して稚魚にして大きくするので海の資源は減らない
- (3) 現在研究中
マグロの精原細胞をサバの雌に移植してマグロの卵を産ませる技術の研究中

[5]北朝鮮の非核化は進んだのか？

1 6.12 米朝首脳会談の実施

- (1) 2018 年 6 月 12 日開催：シンガポールで、トランプ米大統領と金正恩朝鮮労働党委員長との「史上初めての米朝首脳会談」が行われた。
- (2) 米朝首脳会談の主な合意内容
 - ①トランプ米大統領は北朝鮮に安全の保証を与え、金正恩委員長は朝鮮半島の完全な非核化に向けた責務を再確認する
 - ②米朝双方の国民の平和と繁栄を希求する意思に基づき、新しい米朝関係の構築を約束する。
 - ③朝鮮半島の永続的で安定的な平和体制の構築に尽力する
 - ④北朝鮮と韓国による「板門店宣言」を再確認する

「板門店宣言」 (2018年4月27日 南北首脳会談)

1) 非核化について

○完全な非核化を通じて、核のない朝鮮半島を実現する共同の目標を確認した

2) 南北の緊張関係について

○今年、朝鮮戦争の終戦を宣言し、休戦協定を平和協定に転換し、平和体制を構築するため、南北米の3者または南北米中の4者会談の開催を推進する。

○軍事的緊張と衝突の根源となる一切の敵対行為を全面中止する。

3) 今後の南北関係の進展について

○文在寅大統領が今秋平壤を訪問する

○当局者が常駐する南北共同連絡事務所を開城に設置

○8月15日を契機に離散家族・親族の対面を進める

⑤朝鮮半島の捕虜や行方不明兵士の遺骨の回収と返還に取り組む

⑥会談結果の実行のため、ポンペオ国務長官と北朝鮮高官による交渉をできる限り早く開催する。

2 「6. 12米朝首脳会談」の評価とその後

(1) 米国は

①マスコミは、「中身の無い合意」と批判

米国が求めてきた「完全かつ検証可能で不可逆的な非核化(CVID)」を盛り込めなく、非核化に向けた具体策が見られない。

②トランプ米国大統領は「北朝鮮の核の脅威はなくなった。」と成果を強調→支持者はトランプ大統領を絶賛

会談直前に、北朝鮮に拘束されていた米国人3名が解放された

会談直前に、北朝鮮の豊溪里核実験場の廃止が実行された。一部マスコミに公開された。

(2) 北朝鮮は

①「労働新聞」は4面を使って30枚余りの写真を掲載し、超大国と対等に渡り合った金正恩委員長を賞賛。特に1)北朝鮮の非核化の段階的措置を認めさせた2)米国大統領に「米朝交渉を続ける間は米韓軍事演習を停止する」と発言させたことを大きく評価。

②中国と韓国との関係改善により、経済の改革を模索

(3) 韓国は

①「米朝首脳会談」の後押しをした文在寅大統領の評価が高まり、地方選で与党有利に影響した。しかしそれは一時的でその後文在寅大統領の支持率低下傾向

②トランプ米国大統領の「米朝交渉を続ける間は米韓軍事演習を停止する」との発言と、「韓国駐在米軍の縮小を検討」との発言に戸惑い

(4) 中国は (米朝会談の後、金委員長は中国を訪れ3度目の首脳会談。米朝首脳会談の結果を報告) 米朝首脳会談を評価。特に「米朝交渉を続ける間は米韓軍事演習を停止する」との発言を評価(実はこのことを首脳会談で取り上げるように周主席が金委員長に事前の中朝首脳会談で示唆していた)。中国は朝鮮半島全体の非核化を求める立場。そして今後は中朝連帯強化で一致。→北朝鮮の強気

(5) 日本は

①安倍首相は、米朝首脳会談の結果を評価

②拉致問題の進展のために「日朝首脳会談」模索…7月にベトナムで日朝の情報機関担当者が接触した

3 現在の米朝関係と非核化は？→米朝の応酬の復活

(1) 米国

①ポンペオ国務長官の8月の北朝鮮訪問を見送り(北朝鮮の非核化が進展していない。中国にも不満)

②軍事演習を停止している理由がないと発表

(2) 北朝鮮…会談直前に、北朝鮮の豊溪里核実験場の廃止が実行した。今後は米国が朝鮮戦争終結に協力して、北朝鮮敵視政策を止めるべき

(3) 両国は、非核化と朝鮮戦争終結のどちらを先に進めるかを巡って、応酬している(そもそもそれを6.12米朝首脳会議で決めていなかった!)

(4) 金正恩委員長は訪朝した韓国代表団に、トランプ米国大統領の任期末(2021.1)までに非核化をすると述べたという

(5) 両国は、年内にも2度目の米朝首脳会談を開催するかもしれない

金正恩委員長からトランプ米国大統領に親書で米朝首脳会談の申し出。トランプ大統領が快諾。

[6] トランプ発の世界貿易戦争は起こるのか？

1 トランプ政権の貿易政策の考え方：アメリカファーストの保護貿易主義

(1) トランプ大統領の就任演説

トランプは、2017年1月の就任演説で、「何十年もの間、我々はアメリカの産業を犠牲にし、外国の産業を豊かにしてきた。……しかし、それは過去のことだ。……この瞬間から、アメリカ第一になる。貿易、税金、移民、外交についてのあらゆる決定は、アメリカの労働者と家族の利益のために行われる。他国によってもたらされる惨害から国境を守らなければならない。彼らは我々の商品を生産し、会社を盗み、仕事を破壊している。保護こそが偉大な繁栄と力に繋がるのだ」と語り、保護貿易主義の原則を宣言した。

また、環太平洋戦略的経済連携協定（TPP）からの離脱を宣言するとともに、北米自由貿易協定（NAFTA）の見直しも提案した。

(2) トランプ政権が狙う保護貿易主義のメリット：「アメリカファースト」

① 国内産業の保護・育成

外国製品が国内に入ることを制限することで、国内産業を守ろうとする

② 貿易収支の黒字化

関税をかけて外国からの輸入品が売れないようにする。すると外国からの輸入が減り、貿易赤字が減る。

2016年のアメリカの貿易赤字のうち47%が対中国、日本は9.1%、ドイツは8.8%、メキシコは8.6%。

③ 雇用増加

トランプ政権の支持者はラストベルトの労働者に多い。そこで、トランプ政権は、保護貿易主義になることで、自国の産業を保護すれば国内に雇用を生み出すことが出来ると考えている。とはいえこれには「雇用はかえって減る」という説もある。

2 トランプ政権の保護貿易政策の実施

(1) 初めは対中国が中心（アメリカにとって中国は最大の貿易赤字国）

3月23日、①アメリカが3月8日に発表していた、「鉄鋼、アルミについての輸入制限」は23日に発動され、日本や中国などに対し、それぞれ25%、10%の追加関税が課せられることになった。

②トランプ政権は22日、中国が知的財産権を侵害しているとして米通商法301条に基づき制裁措置を行うと発表、最大で600億ドル相当、ハイテク電子製品など1300品目に関税が課せられる見込みとなった。

こうしたアメリカの措置に対して、中国商務部は23日、WTO保障措置協定に基づき、アメリカにおける鉄鋼、アルミ製品に関する通商拡大法232条措置に対する中止・譲歩を迫るための製品詳細リストを発表した。

4月6日、①トランプ大統領は「中国による不公正な報復措置を踏まえて、私はアメリカ通商代表部に対し、通商法301条に基づいた1000億ドルの追加関税が適切であるかどうか考慮し、そうであるとすれば、この関税を課す製品を特定するよう指示した」とする声明を発表した。

②これに対して、中国商務部も4月6日、「もし、アメリカが中国や国際社会が反対するのを顧みず、単独主義や保護貿易主義といった行為を堅持するならば、中国側は最後まで付き合う。いかなる代償も惜しまず、必ず反撃を行う。新しい総合的な対応措置を取り、国家や人民の利益を守り抜く」と発言した。

7月6日：対中国第1弾（818項目340億ドル）の高関税措置を発動

同日：中国が対米報復（545項目340億ドル）の高関税措置を発動

8月23日：対中国第2弾（279項目160億ドル）の高関税措置を発動

同日：中国が対米報復（333項目160億ドル）の高関税措置を発動

今後、9月：対中国第3弾（2000億ドル、22兆円）の高関税措置を発動を予定

ただちに：中国が対米報復（600億ドル+措置）の高関税措置を発動を予定

さらに米国が第4弾を検討。実施すると対中国の全輸入品に高関税をかけることになる。

※中国は、米国との貿易問題を抱え、他の国々と親密度を増す外交政策を展開

(2) 次第に対象国を拡大

6月1日、米国が鉄鋼関税をカナダ・メキシコ・EUに発動

6月5日、メキシコが米国の鉄鋼関税の報復を発動

6月上旬、G7で米国の保護貿易主義に批判集まる

6月15日、米国が、知的財産の侵害を理由に、7月6日から中国製品に高関税を発動すると発表

6月16日、中国が、米国からの高関税に報復し7月6日から発動すると発表

6月22日、EUが、米国の鉄鋼関税への報復措置（米国産バイクやジーンズなどへの高関税）を発表。

→25日、ハーレーダビッドソンが欧州向けバイク生産工場を国外に移すことを発表

6月26日、中国は、インドなど米国以外から輸入する大豆の関税8%を0にすると発表。

7月1日、カナダが対米報復関税の発動

3 トランプ政権の保護貿易政策をどう捉えるか？

(1) 日本政府は

- ①鉄鋼関税に対しては、WTOルールの中で対抗措置を執るとしながら慎重。
- ②予想される自動車への高関税に対しては、トランプ政権に膨大な意見書を提出（日本の自動車企業はアメリカの雇用に貢献。自動車高関税はかえってアメリカに打撃を与える：これはGMも同じ主張をしているのだが）

(2) 経営コンサルタント・大前研一氏のコメント： <ああ、トランプの「勘違い」>

かつて日米貿易摩擦のときに、日本はかなりの部分で米国の主張に従った。一方、今回の中国は「目には目」「やられたらやり返す」という政策をとった。ここで選んだ品目が非常に面白い。大豆、トウモロコシ、小麦などは、いわゆる「トランプ・カントリー」のウィスコンシン州やアイダホ州、アイオワ州、インディアナ州が生産している物だ。この産地の農民はトランプ大統領の強烈的な支持者。そういう所を狙いうちにしたわけだ。中国は、冷静に分析して攻めてきているようだ。

そもそも、トランプ氏が「貿易不均衡の国は米国の敵」と主張していることには根拠がない。なぜかという、対中国の貿易で米国には約30兆円強の輸入超過が生じているが、その品目の多くは中国から売り込んだ物ではないからだ。

1980年代の日米貿易戦争の際、日本のメーカーは自動車、家電とも強く、トヨタ、ホンダ、日産、ソニー、パナソニックなどは米国に拠点をつくって売り込んでいた。現在、中国企業で米国に売り込む力を持っているブランドはほとんどない。

米国の輸入超過の30兆円強のうちの5兆円は、実は鴻海に成都で委託製造してもらっているアップルのiPhoneだ。つまり、ヒューレット・パッカートのPCやプリンターなどのように、米国企業が安い人件費の中国で作らせて輸入しているものばかりなのだ。さらには、スーパーマーケットチェーンのウォルマートなどもバイヤーを香港などに置いて買いまくっている。

米国企業が中国で作らせていた品目が25%高くなり米企業や米消費者も打撃を受ける。それに、中国は反撃策としてトランプ支持の農民をたたこうとしている。トランプ氏は「全部終わって見たら、米国はより強い国になっている」と語っているが、合理的な理屈は何もない。

4 「世界貿易戦争」になれば影響は？

(1) 各国の貿易を縮小させ、世界経済を傷つける

世界経済の分業体制構造そのものに対して変更を迫ることになり、再構築に時間がかかる。一時的ではなく、長期的に経済の停滞を引き起こす可能性がある。株式市場に対しては、きわめて重大な影響を与えることになる。

(2) 保護貿易は第二次世界大戦の原因の一つ

1929年の世界恐慌により1930年代の世界は、景気後退が大恐慌に発展し、自国の産業や労働者を守るために、保護貿易が広がった。列強各国は、自国及び植民地で完結するブロック経済圏を作り、圏外からの輸入には高い関税をかける一方で、通貨安を進めて、自国の輸出はできるだけ行いたいという身勝手な政策がトレンドになった。その結果、世界の貿易は、約1/3に減少、生産力も半減。ブロック経済に入れなかった国やブロックの力が弱かった国は、不況や失業にあえいで、戦争へと突き進む要因の一つとなった。

[7] 中学校の部活動への最近の対策2つ

1 教員の働き過ぎ問題対策として、活動時間の縮小

(1) スポーツ庁の「中学校運動部活動の総合的なガイドライン」

スポーツ庁は、2018年3月に、「中学校運動部活動の総合的なガイドライン」を示し、「週2日以上以上の休養日、土日はどちらか1日以上」の休養日を設けることを基準とし、時期は明記しなかったが、速やかに改革に取り組むように求めている。

(2) 全国都道府県の取り組み

千葉県を含む19教育委員会が「週2日の休み」を方針に盛り込み、13教委が盛り込む予定。（他教委も検討中）

32のうち少なくとも6教委が「朝練も原則禁止」の方針。

2 教員の働き過ぎと部活動の充実策として

文科省が来年度に「部活動指導員」を増加し、1万2千人（公立中は9400校）を配置する方針。2021年度までに約3万人に

- ①「部活動指導員」は教員の代わりに顧問になれる（実技指導、大会や練習試合の引率、会計管理、保護者への連絡、指導計画の作成、事故や生徒指導への対応などができる）
従来の「外部指導者」主に技術指導のみ。他に顧問が必要。
- ②「部活動指導員」の課題：責任重くて報酬少ないので成り手の確保ができるか？

長野県安曇野市在住の池田は現在、安曇野で3つの歴史勉強会（「古代安曇氏族の興亡の勉強会」「中世信州山城の勉強会」「近代自由主義者の清沢淵の勉強会」）に参加している。その他に、「古文書講座」や「安曇野検定講座」を受講した。どうやら私はけっこうな歴史好きで、他にも日本史に関するネットやTV番組を見たり本を読んだりすることも多い。すると日本史に関して何かと学ぶことになる。そこでセミナー会員の皆様のために、それらから得られた豆知識の一端を紹介することにした。

[1] ホモサピエンスだけがなぜ世界に広がったか <NHKsp: 人類誕生3>

1 アフリカを出た人類

- (1) 人類は約700万年前にアフリカで誕生。その後20種もの人類が現れたが約500万年はアフリカを出なかった。
- (2) 人類の出アフリカ
 - ① 約200～180万年前にホモエレクトス(かつてはピテクントロプス・エレクトゥスと呼ばれていた)がアフリカを出て、次第にヨーロッパから東アジア・東南アジア(北京原人やジャワ原人はホモエレクトス)まで広がった。
 - ② 約30万年前にネアンデルタール人がアフリカを出て、次第にヨーロッパから中央アジアまで広がった。
 - ③ 約5万5千年前に現生人類のホモサピエンスがアフリカを出て世界各地に広がった。

2 ネアンデルタール人が絶滅し、ホモサピエンスが生き残ったのはなぜか? (前回のNHKsp <人類誕生2>

- (1) 従来の説: 「ネアンデルタール人は知恵が足りなかったので絶滅し、知恵に優れたホモサピエンスが生き残った」とされていた→これはまちがい

ネアンデルタール人の方が知性が低いというのは間違い

- ① ネアンデルタール人の方がホモサピエンスより頭蓋骨が大きく、脳は10%以上大きかった
- ② ネアンデルタール人は、首にホタテ貝に穴を開けてひもを通したペンダントや腕に鷲の爪に穴を開けてひもを通したブレスレットをしていた→知性は高かった

- (2) 絶滅原因1: ネアンデルタール人の方が身体が大きくて屈強だったので、狩りの工夫があまり必要でなかったために道具と知性があまり進化しなかった

- ① 身体が大きく屈強なネアンデルタール人は、体当たりや、槍を突き刺すなどの方法でサイなどの比較的大型動物を狩りで仕留められた
- ② ホモサピエンスには大型動物の狩りは難しく、ウサギなどの小型動物が狩りの対象になったが、すばしっこい獲物を近づかないで得るためには遠くまで飛ばせるアトラトルなどの飛び道具の工夫が必要だった。

- (3) 絶滅原因2: 集団の大きさが明暗を分けた

- ① ネアンデルタール人は大した工夫もなく獲物を得られるので10～20人の小集団(家族などの単位)で生活したために、何万年もあまり変化のない生活を送った
- ② 工夫の必要なホモサピエンスは、信仰や宗教などをもとに結びつきを強め、150人程度の大集団で生活した。大集団であったために小さな改良・工夫がすぐに大集団全体で共有されたことで、大集団の誰かの手によるさらなる工夫と進歩を生んだ。

- (5) ネアンデルタール人の絶滅: ヨーロッパを襲った気温の乱高下への対応

- ① ヨーロッパに気温の乱高下が起こり、極端な寒さと暑さを短い時は10年単位で繰り返し、時には森がなくなり生物が激減した
- ② ネアンデルタール人は身体が大きいただけ余計にエネルギーを必要とすることと、道具の進歩の不足でこの危機に対応しきれず、激滅し、最後はジブラルタルで絶滅した。
- ③ ホモサピエンスは益々集団が大きくなり数千人の単位となり、様々な工夫・進歩と互いに助け合い補い合ってこれを乗り切った

3 ホモサピエンスだけが世界各地に広がることのできたことは、ホモサピエンスだけが日本列島に渡れたことと深い関係がある。

- (1) 日本列島に人類(ホモサピエンス)は南北2つのルートで渡ってきた。

- ① 当時は氷河期で北は大陸とつながっていて、北から北海道に渡ってきた。

証拠: 北海道千歳市柏台1遺跡から出土の細石刃(動物の骨に刻んだ溝にはめ込んで使用)と似たものがシベリアのストゥディオノエ遺跡からも多数出土

- ② 台湾から、南の海を越え、南西諸島に渡ってきた

証拠: 沖縄石垣島の白保竿根田原洞窟遺跡で、2万7000年～2万年前の人骨が19体出土(白

保人のDNA解析の結果、現在の東南アジアの人々に近い
この頃の東南アジアには、ラスコー洞窟壁画やショーヴェ洞窟壁画に匹敵する洞窟壁画の文化を持つホモサピエンスが数カ所に分散して生存していた。中で台湾が日本に最も近かった。

- (2) 北から渡ってきたホモサピエンスは、〇〇のおかげで極寒のシベリアで生存することができた。
- ①シベリア北端の3万2千年前の「ヤナRHS遺跡」からマンモスの骨で製造した103本の「縫い針」が出土した
 - ②縫い針と糸があれば、毛皮を縫い合わせて衣服を作り、極寒の地で生きていった
 - ③縫い針の製造工程は複雑
 - 1) 鋭い石器で、動物の脚などの骨に縦に数センチの溝をつける
 - 2) 別の石器で、5～10cmのかけらを割り出す。これが針のもとと成る
 - 3) 別の石器で、針のもとを削り針の形に整える
 - 4) 極尖った石器で、針の形にした骨片に糸通しの穴をあける。万一針が割れたら最初からやり直しとなる。
 - ④骨から縫い針を製造するには、完成形を思い描き製造工程を順序立てて考える知能が必要。完成形を思い描き製造工程を順序立てて考える知能は脳の言語を司る部分と重なる。つまり、言語中枢が発達しないと、完成形を思い描き製造工程を順序立てて考えることができない。
 - ⑤ホモサピエンスは、よく言語を使って言語中枢が発達したので、完成形を思い描き、製造工程を順序立てて考える知能も発達し、縫い針を製造することができた。ネアンデルタール人は、言葉を話せたがあまり言語を使用せず、言語中枢もあまり発達しなかったため、完成形を思い描き製造工程を順序立てて考えるほど知能も発達せず、縫い針を製造することはできなかった。そこで極寒の地に進出できなかった。
 - ⑥「縫い針」を得たホモサピエンスはシベリアから日本列島に渡り、その後シベリアから同じ極寒のアラスカに渡り南北アメリカ大陸に進出できた

- (3) 南から渡ってきたホモサピエンスは、〇〇のおかげで大海原を舟で渡ることができた。
- どうやって渡ったのか、「実験考古学」で実験で検証してみた
- ①「漂流説」は間違い＝台湾から59個のブイを流してみたがすべて黒潮に乗り北上。与那国島など南西諸島に漂着しなかった
 - ②ヒメガマ製の「草舟」の実験では、見事に浮かんだが、与那国島を出発してから東の西表島には黒潮に抗して東に向かうことができず到着できなかった。
 - ③「竹舟」も見事に浮かんだが、与那国島を出発してから東の西表島には黒潮に抗して東に向かうことができず到着できなかった。
 - ④オーストラリアのアジベベ遺跡からこの時期の「石斧」が出土→石だけより柄をつけることで10倍の打撃力を得られる→「石斧」で木を伐り、「石斧」で丸太を削りぬいて「丸木舟」を作る(実験では6日で木を伐り1ヶ月かかって1艘の「丸木舟」を製造できた)
 - ⑤実験では与那国島を出発した「丸木舟」は黒潮の流れに負けない推進力を得て東に進むことができた
→台湾にいたホモサピエンスは「石斧」で製造した「丸木舟」で与那国島に到着し、以後次第に島伝いに日本列島を北上したのだろう
 - ⑥つまり「石斧」で「丸木舟」を製造できたホモサピエンスは日本列島に渡り、その後太平洋の島々に進出することができたのだろう。

[2] 蘇我氏と飛鳥との関係 ～ NHK歴史秘話ヒストリア：「大化の改新」から～

1 最近の飛鳥の発掘調査から

最近、飛鳥で大化の改新や蘇我氏にまつわる遺跡が次々に発掘され、次々に新事実が明らかになってきた。

2 645年の乙巳の変について

- (1) 『鎌足花伝』によれば、中臣鎌足が中大兄皇子に蘇我入鹿打倒を打ち明けた
644年正月に飛鳥の蘇我蝦夷・入鹿邸と飛鳥寺の間の「槻木の広場」で、皇子たちが蹴鞠に興じている時に、それを窺っていた中臣鎌足30歳の前に中大兄皇子19歳の靴が脱げて飛んできたので、鎌足が皇子の靴を差し出した時のやりとりで中大兄皇子の人柄を見た。その数日後に鎌足は中大兄皇子に、蘇我入鹿打倒を打ち明けた。
- (2) 入鹿暗殺の場所と状況は、従来説と違って、屋外
 - ①従来説は、飛鳥板蓋宮の大極殿の屋内で暗殺。
 - ②発掘の結果、飛鳥板蓋宮には「大極殿」はない。しかも『日本書紀』によれば、中大兄皇子は長槍を持ち、鎌足は弓を持っていたというのは、屋内ではおかしい
→事実は、飛鳥板蓋宮の大王御在所の大型建物の外で。
- (3) 入鹿暗殺の後、なぜ父蝦夷が簡単に自害したのか？
645年6月12日の入鹿暗殺の後、東漢氏などは武装して甘樫の丘に集結したが、中大兄皇子

と中臣鎌足の説得で武装解除してしまった。蘇我氏の自前の軍力は少なく、配下の渡来人に依存していた蘇我氏は、戦いを諦めたのだろう。

3 なぜ蘇我氏はなぜ絶大な力を握ることができたのか？ (発掘調査から分かってきたこと)

- (1) 蘇我氏の拠点である「飛鳥」に大王の邸宅と宮（飛鳥板蓋宮）を作らせることに成功したから
飛鳥には、蘇我氏の邸宅と墓と氏寺（飛鳥寺）が建設された
- (2) 蘇我氏はなぜ「飛鳥」を拠点にしたのか
 - ① 当時「飛鳥」は渡来人（東漢氏・秦氏・西文氏など）が多く住む所だった
 - ② 当時漢字が読めるのはほぼ渡来人の独占状態で、漢字を読むことで財政・出納などの実務能力に長けていたから、これらを配下として活用するために
 - ③ 大和盆地の南西部の飛鳥から大量の鉄製品が出土した→飛鳥を握れば、渡来人の鉄加工技術を握ることができる

4 蘇我入鹿と蝦夷の墓の発見か？

- (1) 今までに発掘されていた蘇我稲目の墓とされる「都塚古墳」も、蘇我馬子の墓とされる「石舞台古墳」も方墳→蘇我氏の墓は「方墳」か？
- (2) 飛鳥で発見された「小山田古墳」とそこから約100mの「菖蒲池古墳」は蝦夷と入鹿の墓か？
 - ① いずれも方墳である
 - ② 『日本書紀』に、蝦夷と入鹿の墓は双墓で大小があるとの記述に適合する
 - ③ 飛鳥板蓋宮の北に飛鳥寺、東に「都塚古墳」「石舞台古墳」、西に「小山田古墳」「菖蒲池古墳」
 - ④ 「小山田古墳」「菖蒲池古墳」の石棺が家形で、蝦夷・入鹿の邸宅の形に似ている。

[3] 鉄砲伝来。種子島に漂着した船はどこ船？

1 かつて1543年に種子島に漂着したのは「ポルトガル船」と言われていた

2 現在は、「中国人倭寇の船」と変更された

- (1) 高校歴史教科書『山川日本史 B』では、「1543(天文 12)年にポルトガル人を乗せた中国人倭寇の船が、九州南方の種子島に漂着した」と記述されている。
- (2) NHKE テレ<高校日本史講座>によれば
中国人倭寇の頭目王直の船が中国の寧波に向かう途中に難破し種子島に流れ着き、同乗していたポルトガル人が鉄砲を伝えた。
「倭寇」…室町時代の倭寇は日本人が中国・朝鮮の沿岸を荒らした海賊。戦国時代の倭寇は中国人の商人集団で時として海賊を行った。

[4] 歴史に学ぶ先人の知恵～長谷川平蔵の知恵

1 長谷川平蔵に治安・防犯対策が命じられた

火付盗賊改長官の長谷川平蔵は老中松平定信から、本来の仕事以外に、江戸の治安維持と防犯を命じられた。

当時は天明の飢饉が起り、各地の農村から、食べ物を求めて江戸へ多くのものが押し寄せ、無宿人となり、治安が悪化していた。そこで平蔵は、治安維持と防犯のために無宿人対策を企画した。

2 平蔵は石川島に人足寄場を設けた

平蔵は無宿人対策として、江戸湾の石川島に無宿人を強制的に収容して職業訓練を行う「人足寄場」を設けて運営した。無宿人は仕事もなく窃盗などの犯罪を行う者が多かった。

- (1) かつての飢饉のとき幕府はすでに同様の「職業訓練所」を設けていた。
しかし、かつての「職業訓練所」は、食糧事情が悪く、しかも疫病も蔓延したため、収容者の脱走が多く、わずか2年で閉鎖せざるを得なかった。
- (2) 平蔵の「石川島人足寄場」は、歴史に学んで改善した
平蔵の「石川島人足寄場」は、かつてより食糧事情を改善し、さらに疫病対策として医者を出診させた。また、病に倒れた者には同郷の者を介護につけて心のケアを意識した。その上収容者の意見を取り入れ、石川島に小さな神社も建設した。こうした平蔵の計らいで、平蔵の「石川島人足寄場」事業は軌道に乗り効果を挙げ、明治まで続いた。

[5] 薩長同盟 NHK<英雄たちの選択：真説！薩長同盟>から

1 薩長同盟（薩長連合）とは

(1) 【山川出版の『日本史用語集』から】

「第二次長州征討にあたり、結ばれた薩摩・長州両藩の同盟。1866年、京都で坂本・中岡の斡旋により、薩摩の小松帯刀・西郷隆盛、長州の木戸孝允が会盟。相互援助を約し、倒幕の主力を形成した。」

(2) 【山川出版の高校教科書『日本史 B』から】

「1866(慶応 2)年には、土佐藩出身の坂本龍馬・中岡慎太郎らの仲介で薩摩藩は長州藩との軍事同盟の密約を結び（薩長連合、または薩長同盟）、反幕府の態度を固めた。」

2 かつては、薩長同盟締結の最大の功労者は、坂本龍馬と言われていた

坂本龍馬が憎しみ合う薩摩藩と長州藩を会見させ、西郷・小松と木戸を説得して同盟を結ばせた。

3 現在は、薩長同盟締結の最大の功労者は、小松帯刀ではないかという説が有力

(1) 両者の会見場所が京都の小松帯刀邸

(2) 小松帯刀という人物

① 薩摩藩主島津斉彬の開明策実施の時に斉彬の奥小姓(側近)として産業育成に携わったり、1861年に藩命で長崎で蒸気船のことで殖産興業の重要性を学んだ

② 小松帯刀に対する人物評

1) 坂本龍馬「薩摩での人物はまず小松帯刀である」(神戸海軍操練所の閉鎖の後行き場を失っていた龍馬を帯刀が薩摩に迎えた)

2) 英外交官のアーネスト・サトウ「私が知っている日本人で小松帯刀が最も魅力ある人物だ」

3) 勝海舟「薩摩藩の政策はほとんどが小松帯刀が主導している」

(3) 当時の薩摩藩の実力者島津久光(国父)の信頼を得ている(西郷など下級武士だけではできない)

① 28歳で久光に抜擢されて家老に就任

② 家老就任後、長崎貿易で18万両(約180億円)の利益をあげた(1861～65年のアメリカ南北戦争で綿花不足になっていた世界情勢を見て、西国諸藩から綿花を買い占めてヨーロッパに輸出して莫大な利益をあげた)

③ 島津久光の代理として京都での工作を任されていた

(4) 小松帯刀の対長州策

① 1864年10月に小松帯刀は京都で一橋慶喜に面会し、長州征討の中止を進言している。

② 1865年の第2次長州征討の前に、薩摩藩名義で7300丁の新式銃を購入し、長州藩に斡旋した時に、帯刀は「幕府の嫌疑など意に介さない。いかようにも尽力する」と長州の使者に述べた。

(5) 1866年1月の同盟交渉の行き詰まりを打開したのは、小松帯刀ではないか

① 長州の木戸は、1) 薩摩が長州の朝敵との汚名を晴らす工作をしてほしい 2) 幕府が長州を攻めたら薩摩も幕府に武力行使してほしい

② 薩摩(久光)は1)は飲めるが2)は飲めない。そこで交渉決裂目前

③ 恐らく小松が、「一会桑勢力がこれまでのように長州の復権を遮る場合には、薩摩は決戦に及ぶ」という案を提案。→これで木戸が主張が受け入れられたと判断し、交渉締結となった。

しかし、小松からすれば、幕府と武力決戦とは言っていない。あくまでも一会桑勢力との対決。

これなら一会桑勢力に反感を持つ久光を説得できるという見通し

4 薩長同盟締結後の小松帯刀

(1) 島津久光の説得に成功したのだろう

1867年5月、将軍慶喜と久光らが二条城で幕長戦争後の処理についての会議を持った時、久光は「長州は三家老の首を差し出したことで謝罪は済んでおります」と述べたという

(2) 1868. 1. 3 鳥羽伏見の戦いの時は、持病の脚の痛みで鹿児島に帰郷していて参加できず

(3) 明治新政府の外務次官に就任したが、1870年に36歳で死亡した。

[6] 日本でも原爆開発!

朝日新聞「作家高橋源一郎の歩きながら考える」

1 第二次世界大戦下の原爆開発

第二次世界大戦中には、アメリカ以外にドイツやイギリスでも「原子爆弾」の研究や開発が進められていたことは知られている。

2 第二次大戦中には日本でも原爆の研究と開発が進められていた!

急速に不利になりつつあった戦局の中で、陸軍は、東京都文京区の理化学研究所の仁科研究室に大きな期待をかけ、「原爆開発」に巨額の資金を投入した。仁科芳雄は東京帝国大学の電気工学科を首席で卒業した後、理研に入所していた。理研は当時国内唯一の自然科学系総合研究所であった。

1945年、米軍による激しい空襲で「原爆」研究施設の多くを失った理研の仁科芳雄は、5月下旬に「もうウラン爆弾はできない」と陸軍に伝えた。事実上の中止宣言だったにもかかわらず、日本で唯一ウラン鉱の採掘が可能であるとされた福島県石川町では、8月15日の敗戦の日まで、学徒を中心として採掘が続けられた。

3本目:池さんの歴史ナルホド ⑤~⑦

池田義光

池田は気づいてみると歴史大好きで、いろいろと歴史に関わることを学んできた。最近それらの歴史に関する知識をもとに、歴史について心に移りゆくよしなしごとをそこはかとなく書き付ける

池さんの歴史ナルホド(5) 歴史的事実の背景を考える(源氏物語の誕生)

今まで4回にわたって歴史を学ぶおもしろさについて語ってきた。今回はその5回目である。今回は、歴史的事実はなぜそれが起こったのか、当時の歴史的背景を考えてみるとおもしろいということである。

例えば『源氏物語』について考えてみる。

「いづれの御時にか女御更衣あまた侍ひ給ひけるなかに、いとやんごとなき際にはあらぬが、すぐれてときめき給うありけり」で始まる『源氏物語』は、平安時代の中頃、紫式部によって書かれた54帖にもわたる長編小説の大作であることはよく知られている。この小説は日本ばかりでなく世界的にも評価が高い。考えてみれば不思議である。今から千年近くも前になぜこれほどの作品が生み出されたのだろうか？今回はその歴史的な背景を考えてみる。

1 当時は、教養の高い女性(宮中女官)がたくさん出た

源氏物語の作者は紫式部という女性だと言われている。なぜ彼女は『源氏物語』が書けるほどの高い教養を持ち得たのだろうか？彼女は、平安時代の藤原氏による摂関政治全盛期の時代に、摂政藤原道長に高い教養を見込まれ、道長の娘、中宮彰子にいわば家庭教師のようなものとして使えた女官である。当時の貴族の婚姻は男性が女性の家を訪問する「妻問婚」であり、貴族の出世や勢力拡大に娘の嫁ぎ先が大きな関わりをもった。出世を願う貴族にとって、その手段として娘の教養が重視され、そのためすぐれた才能を持つ家庭教師としての女官(女房・侍女)が必要とされた。そこで、紫式部の父も娘をそのような高い教養を持つように育てたのである。同時期に紫式部のライバルとされる清少納言は皇后定子に使え、『枕草子』という高い教養を必要とする随筆を著した。

2 当時は、「平仮名」が生まれ、女性(宮中女官)は「平仮名」を使って表現できた

当時の文学には、紫式部の『源氏物語』や清少納言の『枕草子』以外に、藤原道綱の母の『蜻蛉日記』や和泉式部の『和泉式部日記』や菅原孝標の娘の『更級日記』など女性の手によるものが多い。これはなぜだろうか？それは、当時の宮廷女官が高い教養を持っていた他に、平安時代初期に生まれた「平仮名」との関わりが深い。「平仮名」は漢字の草書から生まれた日本独特の文字である。筆記が容易な平易な文字であるばかりでなく、一音ずつに対応するので、難しい漢文ではなく普段彼らが使っている日本語の文で表現する時にも大変便利であった。しかしながら「平仮名」は、当時の正式の文字である「漢字＝真名」に対し、一段低い「仮の文字＝仮名」と考えられていたために、男性より一段低く考えられた女性だけが用いるものとされたということが深く関わっている。そのため、情景描写や当時の人々が自分の思ったことや感じたことなどを豊かに表現することは、「平仮名」を使用する女性の得意とするところとなったのであり、当然『源氏物語』にも「平仮名」が多用されている。つまり紫式部が「平仮名」が使えたことが『源氏物語』の優れた情景描写や感情や思いの豊かな表現を可能にしたのである。

3 当時は、宮中は華やかな生活と男女の交流の場であった→魅力的な小説の舞台になる

『源氏物語』には貴族たちの宮中での華やかな生活と男女の交流が盛んに描かれている。当時の平安貴族の生活は経済的にも恵まれ、文化も成熟して国風化し、華やかな宮中生活が営まれた。また当時は娘の嫁ぎ先が男性貴族の出世と深く関わりがあったために、宮中での男女の交流は盛んであった。そのような中で暮らしていた紫式部や『源氏物語』の読者である貴族たちにとって華やかな宮中生活と男女の交流は大きな関心事であり、『源氏物語』の執筆に強く影響を与えたのであろう。

池さんの歴史ナルホド(6) 歴史の深読み(桶狭間の戦い)

池田義光

今まで5回にわたって歴史を学ぶおもしろさについて語ってきました。今回はその6回目です。今回は、歴史的事実について、自分なりに深読みし、それはなぜそれが起こったのであろうかとか歴史上の人物のその時の思いなど、を考えてみると歴史はよりおもしろくなるということについて、「桶狭間の戦い」を例に、述べてみたい。

1 歴史上の「桶狭間の戦い」とは？

有名な「桶狭間の戦い」は次のように歴史的事実が捉えられています。

「桶狭間の戦い」とは、1560(永禄3)年5月、尾張をようやく統一したばかりの新興の戦国大名織田信長 25歳とすでに駿河・遠江・三河の三国を領する戦国の大大名今川義元との間におこった戦いであることは、皆さんご存じのことと思います。この時尾張に攻め込んだ今川軍は約2万5千の兵、これを迎えた織田軍は約5千と言われています。約5分の1の兵力差です。しかも今川氏は、関東の北条氏や、甲斐の武田氏との間に同盟を締結しており、後顧の憂いのない状況を作り上げていました。その戦力差は圧倒的です。この時の今川氏の尾張侵攻の狙いは、上洛説と勢力拡大説と両説があります。

今川軍約2万5千は尾張に侵攻すると織田方の各地の砦を次々に襲撃し、前衛の丸根砦、鷺津砦は5月19日までに陥落してしまいました。この時織田方の軍議では、家臣の間には籠城すべしとの意見が強かったのですが、18日夜半、信長は少数で清洲城を出て出撃しました。しかし信長はどの砦の支援にも向かわず、熱田神宮で戦勝祈願し、家臣が集結するのを待ちました。約2千の兵が集結した頃、今川義元が桶狭間村の田楽狭間で休憩をとっているとの情報を得た信長は、直ちに2千の全軍で田楽狭間に向かい、今川義元の本陣約5千を急襲しました。折しも雨が激しくて今川軍は織田軍の急襲に気づくのが遅れたと言います。これが「桶狭間の戦い」です。この戦いで織田軍はついに今川義元的首をあげました。義元が討ち死にしたことで今川軍は総崩れとなり、敗走しました。

そして信長はこの勝利によって勢力を急速に増大させたのです。

2 この戦いから様々なことが深読みできます

(1) 織田信長はなぜ籠城策をとらなかったのか？

尾張に侵攻した今川軍は約2万5千であり、対する織田軍は約5千に過ぎません。こうした圧倒的戦力差の戦いでは劣勢の軍にとって野戦は不利であり、籠城策をとるのが通常です。事実織田家臣団も軍議では籠城策を主張したそうです。しかし信長はこうした状況にもかかわらず、籠城策をとらず出撃しました。＜では信長はなぜ籠城策をとらなかったのでしょうか？＞私は信長はこの時既に「天下布武」を夢見ていたのではないかと考えます。一般には信長が「天下布武」を考えたのは、後に美濃の斎藤氏を倒して岐阜城に入城して「天下布武」の印判を使った時からだと言われていますが、私はもっと前、尾張を統一したあたりから末は「天下布武」を夢見ていたのではないかと推測します。だから信長は、今川軍の尾張侵攻に対し、降参もせず、籠城もしなかったのではないのでしょうか。籠城策は負けるのを遅らし、できるだけ負けないことを狙う策ですが、籠城策では勝ち目は薄い。このとき信長は、将来の「天下布武」のためにこの戦いの勝ちを狙って、あえて野戦を選択したのではないかと私は推測します。

(2) 織田信長はこの戦いで何をめざしたのか？

今川義元の尾張侵攻に際して、普通の人なら5倍の戦力を持つ今川軍を何とかやり過ごすことを考えるでしょうが、信長はそうではなく、初めから5倍の今川軍を倒し勝利をおさめることをめざしたのではないかと私は考えます。信長は(もしかしたら信長だけは)勝利をめざしたからこそ、籠城策をとらなかったのであり、「今川軍に勝つためのチャンスは野戦にある」と考えて清洲城を出ることを選んだのでしょう。そして5倍の戦力の今川軍に勝つためには、多勢の今川全軍との戦いに勝つことははなから諦め、大将の今川義元さえ倒せば敵が混乱し味方の勝利になりえることを見越し、今川義元的首を挙げることにだけに全力を傾注したのではないかと私は推測します。

(3) 織田軍はなぜ今川軍に勝てたのか？

織田軍は今川義元的首を挙げることで今川軍を混乱に陥れ敗走させることに成功しましたが、なぜそれができたのでしょうか。私は以下のように幾つもの勝因があると考えます。

① 信長は初めから今川軍に勝つことを狙っていた

だから勝てたのです。これが一番大切な勝因だと思います。

② 信長(大将)の勝利の戦略がしっかりしていた

たとえ勝つことを狙っていても戦略がしっかりしていなければ勝てません。信長は劣勢の自軍にとって勝利の条件は敵の大將を倒すことしかないと見切っていたことが大事な勝因です。そのために自軍の砦が攻撃されついに占領されてもそれらを支援することよりも義元を倒すことを優先しました。

③ 信長は勝利の条件である義元的首を挙げることに全力を傾注した

信長は「桶狭間の戦い」の事後の恩賞を決める際に、大将首を挙げた武將よりも、義元が桶狭間村の田楽狭間にいることを知らせた武將を一番手柄としています。ここにも義元的首を挙げるためには義元のありかを知ることがなによりも大切であり、義元本体の襲撃こそ信長の狙いであったことが示されています。

また信長は、劣勢の自軍の砦の支援には兵を送らず、集結した2千の兵全軍を義元本体の攻撃に使いました。義元本隊がどこにいるかの情報を得て迷わずすぐに全軍で急襲したことがおおきな勝因でしょう。田楽狭間の義元本体は約5千の兵だったと言われています。義元本体約5000対信長率いる織田軍約2000だったので勝負になったのです。

④ 今川義元には油断があったのでは

今川義元はなぜ田楽狭間という攻撃されやすい場所にいたのでしょうか？砦を占拠したなら今川本体も砦に入るかそれでなくても田楽狭間よりもっと防御しやすい場所にいるべきではなかったのでしょうか？しかも戦いの最中に戦場でのおんびり休憩して昼食をとっていたとはなぜでしょう？私はそこに義元の油断を感じます。義元側から言えば、最初から兵力に大きな差があつて敵を見くびっていた上に、織田方の丸根・鷲津などの砦が簡単に落とせたことでさらに油断が生じたのでしょう。また、今川軍は約2万5千もいたのにそれを分散し、義元本隊は5千だったのも油断かまたは戦術のミスでしょう。さらに織田方が丸根・鷲津などの砦の守兵にわずか500程の兵士しか割いていないのももしかしたら、砦は捨て駒として簡単に負けて今川軍の油断を誘う手段だとしたら恐ろしいことです。

⑤突然の激しい雨も信長方に幸いした

信長軍が田楽狭間を急襲する時に折しも雨が激しくなり、雨音で信長軍の接近に義元軍が気付くのが遅れたそうです。こうした運も信長軍に幸いしたのでしょうか。

⑥戦いの場所は信長には地の利があつた

信長は幼少の頃より戦争ごっこが好きであつて、近習と地元を駆け回っていたと伝えられています。そのため信長は戦場となつた桶狭間の地域は知り尽くしていたので有利であつたと考えられます。

池さんの歴史ナルホド(7) 歴史の深読み(長篠の戦い)

池田義光

今まで6回にわたって歴史を学ぶおもしろさについて語ってきました。今回はその7回目です。今回は、歴史的事実について、自分なりに深読みし、それはなぜそれが起こつたのであろうかとか歴史上の人物のその時の思いなど、を考えてみると歴史はよりおもしろくなるということについて前回の「桶狭間の戦い」に続いて「長篠の戦い」を例に、述べてみたいと思います。

1 歴史上の「長篠の戦い」とは？

有名な「長篠の戦い」は、高校日本史の教科書：山川出版『詳説日本史B』では、次のように記述されています。

「1575(天正3)年、三河の長篠で、織田・徳川連合軍と武田軍が激突した戦い。織田・徳川連合軍は、鉄砲を大量に用いた戦法で、騎馬隊を中心とする強敵武田勝頼の軍に大勝した。」

この戦いで、織田・徳川連合軍は約3万人、武田軍は1万5千人だったと言われています。

また、この戦いの意義は以下のように極めて大きかったと言えます。

- (1) 鉄砲が初めて効果的に使われ、以後の戦術・戦法に大きな影響を及ぼしました。つまり織田・徳川連合軍が新兵器の鉄砲を組織的に使用し騎馬戦を得意とする武田軍に圧勝したことで、従来の騎馬中心の個人戦から足軽の鉄砲隊を中心とする集団戦法へ移行する画期的戦闘となつたとされています。
- (2) この戦いに敗れた武田軍は敗走、勝頼も身一つで信濃へ逃れました。武田方の戦死者は山県昌景、土屋昌次、馬場信房などの信玄以来の宿将をはじめとして1万人に上つたといわれます。これ以後武田氏の勢力は急速に衰え、1582年(天正10)滅亡を招きました。
- (3) 宿敵を倒したことで、織田信長の勢力は強大化し、以後天下とりに邁進しました。

2 この戦いから様々なことが深読みできます

(1) 武田勝頼はなぜ自軍より多い大軍と野戦で激突したのか？

この戦いで、織田・徳川連合軍は約3万人、武田軍はその半分の1万5千人だったと言われています。それなのに、武田勝頼は長篠城西方の設楽が原での野戦を選び、しかも自ら進んで織田・徳川連合軍に正面から激突しています。

その理由は、武田軍にとって、二倍程度の織田・徳川連合軍には「十分勝てる」との思いがあつたのだと考えます。

①武田軍が勝てると思つた理由の一つには、目の前の織田・徳川連合軍が大量の鉄砲(火縄銃)を持参していることは、武田軍も承知していましたが、当時の鉄砲(火縄銃)は弱点が多すぎて実戦向きではないと考えたのでしょうか。1)火縄銃なので雨では使えない 2)命中率が悪い 3)玉込めして打つまでに時間がかかり過ぎる などの欠点を幾つも持っており、当時の鉄砲は実戦ではほとんど役に立たないと考えられていたようです。事実、武田軍もこの戦いにわずかながら鉄砲(火縄銃)を持参していましたが、ほとんど使っていません。

②武田軍が勝てると思つた理由の二つには、織田・徳川連合軍の主力は足軽兵であり、武田軍は騎馬部隊、しかも戦国時代最強とも言われ「武田の騎馬部隊」として名を馳せた優れた騎馬部隊を持っていたことです。これは騎馬部隊にするには長期間の専門的な軍事訓練が必要で、鎌

倉時代の守護出身の武田氏には代々武士の家のたくさんの騎馬武者が従っていたが、新興の織田氏には昔から使える騎馬武者が少なかったようです。当時の騎馬武者は、推定ですが、5倍の足軽兵・歩兵に勝てると思われていたそうですので、1万5千人の騎馬部隊なら7万5千人の歩兵部隊に勝てる計算になります。

(2) ではなぜ織田信長は、鉄砲(火縄銃)を用いたのか？

①織田信長にはぜひ鉄砲(火縄銃)を使いたい理由がありました

- 1) 信長は、鉄砲(火縄銃)は欠点も多いが、当たればすごい殺傷能力を発揮できることは、若い頃から鉄砲(火縄銃)を扱っていて知り尽くしていました。
- 2) 織田軍が農民上りの足軽中心で弱兵であることは織田信長にとっても重々分かっていました。しかしそれらの足軽兵に馬を与えて短期間で騎馬兵に養成することは、極めて困難です。しかし、鉄砲なら大した軍事訓練をしなくても打つことだけは割に簡単にできます。そのため自軍の主力の足軽部隊の強化のためには鉄砲は欠かせない武器だと考えたのでしょう。

②織田信長は、鉄砲(火縄銃)の欠点克服を懸命に考えて、実戦に効果的に使用しました

織田信長は、若い頃から鉄砲(火縄銃)に着目し、500丁を仕入れるなどしており、鉄砲(火縄銃)の良い点と弱点を知り尽くしていました。そうした中で欠点を克服し、いつか実戦で本格的に使用することを考えていたのでしょう。

1) 欠点1：火縄銃なので雨では使えない

この「設楽が原での戦い(長篠の戦い)」に先駆けて「長篠城」の防衛戦があったのですが、ここを武田軍に攻められて守る徳川勢が旗色が悪くなり、何度も信長に援軍を依頼しましたがなかなか軍を送りませんでした。これを知った武田勝頼は、信長は武田軍を恐れて兵を出せないのだと理解したと言われていました。しかし実は信長は武田軍を恐れたのではなく、天候が回復し雨が降らなくなる時期を待っていたようなのです。事実、「設楽が原での戦い(長篠の戦い)」当日には雨は降っていません。

もう一つ。信長は万一に備えて小雨程度なら鉄砲(火縄銃)が使えるように、火縄の改良も成し遂げていたようです。

2) 欠点2：命中率が悪い

鉄砲には火薬の爆発による反動もありますし、相当訓練しないと、極めて命中率が悪くて、どこに飛んでいくか分からないということがあったようです。大した訓練時間がない足軽に持たせるには、命中率は期待できません。そこで考えたのが、大量の鉄砲による一斉射撃です。それなら眼前の集団の敵に対し、狙いは外れても、誰かが打った玉が当たるという考えで行けます。実際、これで名だたる武田武将が弱兵である足軽鉄砲隊の玉に当たって次々と戦死したのです。「長篠の戦い」で織田・徳川連合軍は3000丁の鉄砲を使用したと言われて

3) 欠点3：玉込めして打つまでに時間がかかり過ぎる

これについては、従来、織田の「鉄砲三段撃ち戦法」として語られてきましたが、最近の研究では、三段撃ちしたかどうかは、疑わしいとされています。しかし、いずれにしても大量の鉄砲を集団で撃つのですから、誰かが玉込めしている間に別人が打つという具合に間断なく撃たれたものと思われま

(3) 織田信長は、どのようにして大量の鉄砲(火縄銃)を用意したのか？

織田信長は、若い頃から鉄砲(火縄銃)に着目していました。鉄砲(火縄銃)は欠点も多いが、当たればすごい殺傷能力を発揮できることは、若い頃から鉄砲(火縄銃)を扱っていて知り尽くしていました。そうした中で欠点を克服し、いつか実戦で本格的に使用することを考えていたようです。実戦使用のためには、鉄砲の大量調達が必要です。「長篠の戦い」で3000丁の鉄砲を用意したという説は、現在の研究では疑問も投げかけられていますが、いずれにしても、間断なく効果ある一斉射撃ができるほどの大量の鉄砲が用意されたことは確実でしょう。

①信長は「堺」の町を支配下におさめることに力を注いだ

1) 堺の町は貿易港で、鉄砲の火薬に使用する「硝石」の輸入港でした。当時の日本では「硝石」はほとんど生産できず、輸入に頼っていました。従って「硝石」を牛耳ることは「鉄砲」を牛耳ることにつながったのです。

2) 「堺」は有名な刀鍛冶の町でもありました。この刀鍛冶の技術の上に鉄砲を生産させ、しかも分業を取り入れて大量生産を試みさせました。種子島で日本人が初めて鉄砲を2丁手に入れた頃(1543年、長篠の戦いの32年前)は1丁1~2億円ほどもした鉄砲が、大量生産によって1丁数十万円程度で手に入るようになってきました。

こうして信長は、堺から大量の鉄砲を調達したのです。

②信長は、「長篠の戦い」には不足分の鉄砲をレンタルで手に入れた

鉄砲は高価な武器でしたので、何千丁と大量に調達するのはいささか困難でした。そこで信長は「長篠の戦い」に当たって、戦いに参加しない家臣から、少しずつレンタルで手に入れ

て、堺調達分に併せて家臣からのレンタル分も長篠・設楽が原に持参したようです。

(4) 織田信長が行った鉄砲(火縄銃) を効果的に用いる工夫は？

信長は、鉄砲(火縄銃) を効果的に使用するために、「長篠の戦い」では様々な工夫をしました。

①なぜ長大な「馬防柵」を築いたのか

信長は、足軽兵に大量の丸太を運搬させて、長篠・設楽が原に長大な「馬防柵」を築かせました。それはなぜか？「馬防柵」とは、名前のとおり馬を防ぐ柵です。馬というのは賢い動物で、目の前に障害物を見るとそれにぶつからないように自分からブレーキをかけて立ち止まってしまうのだそうです。だから今でも馬の障害物走は高い乗馬技術があるのだそうです。信長は武田騎馬軍を「馬防柵」の前で馬をストップさせてそこを鉄砲で一斉射撃することを企画したそこに馬防柵を築いたのでしょう。

②信長は、戦闘場所の地形も有利になるように選んだ

長篠・設楽が原の織田軍の馬防柵の前は川と湿地帯です。信長はそこで武田騎馬部隊が脚をとられて動きが鈍くなるとことを予想し、動きが鈍くなった軍団に一斉射撃することを企画したのでしょう。

また、長篠・設楽が原の織田軍の位置に対し、武田軍はやや小高い丘の上です。信長は、武田騎馬部隊が一斉に勢いよく自軍に向けて攻めかかってきて、しかも川と湿地帯で脚をとられて動きが鈍くなることを考えて、そこに馬防柵を築いたのでしょう。

こうして、織田信長は、長い時間をかけて様々な工夫と準備をしてこの「長篠の戦い」に臨んだと深読みすると、今まで知っていた歴史もさらに面白くなりませんか？

平成30年11月セミナー予定 11月17日(土)

<勉強会>は、船橋市勤労市民センター **1時 集合**

1. 知っ得ニュース (池田義光)
2. 池さんの歴史ナルホド (池田)
3. 日本史豆知識 (池田)
4. その他 (報告者募集中！)

※終了後 **船橋駅周辺で 4:45頃から<懇親会>**

⇒会員の皆様は、出席・欠席を**できれば 2週間前までに**
池田宛てにショートメール(09023132569)でお知らせください

**お知らせ： 社会科セミナーのホームページは
<船橋市社会科セミナー> で検索ができます！**

本セミナーのお知らせは、このホームページで行います。「次回の社会科セミナーのお知らせ」や「社会科セミナー通信のバックナンバー」「タイ見聞録」「台湾見聞録」「ベトナム見聞録」「韓国見聞録」「沖縄紀行」も公開されておりますので是非ごらんください。